

# 日本川崎病研究センターニューズレター

(No. 1) 2001.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

## ご挨拶

理事長 川崎富作

21世紀を迎え新年のご挨拶を申し上げます。皆様明けましておめでとうございます。

さて、当センターは2000年9月7日で「特定非営利活動法人」として満1年を迎えることができました。



これひとえに、会員の皆様をはじめ、多くの方々の暖かいご支援ご協力のお陰と深く感謝いたします。思えば、1990年9月、川崎病研究情報センターとして発足して以来、色々と紆余曲折の末、10年の歳月を経て、独立した法人として独自の道を歩めるようになったことは感慨ひとしおであります。

この間、(財)生存科学研究所のご好意で同研究所内に川崎病研究会ができ、「川崎病の研究のために」と多くの方々からご支援ご協力を頂いてきました。斯くて、寄せられた浄財を基金として、1999年9月、当センターが法人格を得たのを機に、同研究所との共同研究として新たに活動を開始いたしました。

さて、当センター設立の最も重要な目的は川崎病の病因を明らかにして、診断治療に役立て、最終的には予防法を確立して、子どもたちを川崎病から守る点にあります。この目的のために当センターでは、山口大学小児科と岡山大学生体防御医学講座(基礎医学)の協力を得て、川崎

病の病因解明への新しい試みを始めました。

ご承知のように、川崎病の疫学、臨床像からは何らかの感染因子(ウイルス、細菌、細菌毒素など)が川崎病発症の引き金として重要な役割を演じていると考えられます。これによって、免疫担当細胞群が活性化されて、多彩な免疫反応が起こり、ユニークな川崎病の病態(全身の血管炎、特に心臓の冠状動脈炎がおこる)が形成されるものと考えられています。今までも、内外の研究者がその感染因子の発見に努力してきましたが、残念ながら成功しませんでした。

山口大学の古川漸教授グループは一貫して、川崎病の免疫応答の追求、特にリンパ球、単球、喰細胞の機能および形態学的追求をつづけてこられました。一方、岡山大学の中山春一教授のグループはガン免疫を研究して、近年新しい方法(SEREX法)によってガン抗原の一種を確定することに成功されました。そこで、この二つの研究グループに共同研究してもらえば、川崎病の病因となる抗原(感染因子であれ非感染因子であれ)が発見されるかもしれないと考え、古川、中山両教授に相談しましたところ、お二人共賛同されて、新しい研究チームが結成され、川崎病の原因究明への新たな挑戦が始まりました。

当センターでは、本研究の進展にできる限りのサポートをしていくつもりですので、皆様方の暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

## 役員 の 紹 介

### 理事長 川崎富作

平成 12 年度の総会(6 月 10 日)で承認されました新役員をご紹介します。



左:直江史郎副理事長(東邦大学大橋病院病理学教授)。中央:川崎富作理事長。右:柳川洋副理事長(埼玉県立大学副学長・疫学)。

左:浅井満理事(「川崎病の子供を持つ親の会」代表)。中央:加藤裕久理事(久留米大学小児科主任教授)。右:小池通夫理事(和歌山県立医科大学名誉教授・小児科学)。



左:小川和榮監事(元東京都新宿保健所所長)。中央:菌部友良理事(日赤医療センター小児科部長)。右:佐藤教子(当センター事務局)。



埴賢二:監事(東京小児科医会名誉会長)。

以上、理事 7 名、監事 2 名で当センターの事業を推進させていただくことになりました。会員の皆様ならびに関係各位の暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

## 公募研究の選考に当たって

### 理事長 川崎富作

当センターでは平成 11 年度の事業として、川崎病に関する相談、川崎病の教育ならびに啓蒙活動、日中共同研究、川崎病の歴史から病因を探る、川崎病の長期疫学調査、川崎病血管炎の発症機序、スーパー抗原の検索などが行われました。

平成 12 年度は更に研究課題をも公募し、13 件の立派な内容の応募をいただきましたが、その中から、川崎病病因論で最もホットな話題になった「溶連菌(猩紅熱の原因菌)の出す C 毒素(SPE-C)」が川崎病の病因ではないか、とする 2 題の研究に助成金を出すことになりました。

はじめにも触れましたように、当センターの最重要課題は川崎病の病因解明にあります。この病因解明の第一段階はどのような感染因子(あるいは非感染因子)が抗原として関与しているかを証明することにあります。この真の抗原が発見できれば、それによって惹起する免疫反応の種々相も明らかになり、血管炎を含む川崎病の病態の究明も進み、更には疫学上の疑問点も解明される可能性を秘めています。その上、対症療法に加えて原因療法も期待でき、検査室レベルの補助診断法も可能となり、臨床研究の最終目標である予防法の確立も夢ではなくなりません。新しい道を開拓するには常に大変困難が付きまといますが、山口大学小児科と岡山大学生体防御医学講座との共同研究によって、川崎病の真の抗原因子が証明されれば、SPE-C 病因説の正誤も明らかとなるでしょう。

2001 年の初頭に当たり、夢と希望を述べさせていただきました。

ニュースレターが新しくなりました。

ご意見ご感想をお寄せください。

## 日中共同研究「香港、シンセン、広州の疫学調査」

副理事長 柳川 洋

平成11年度に特定非営利活動法人川崎病研究センターが発足して以来、研究プロジェクトとして、日中共同の



疫学研究がとりあげられています。本年度は広東省全域を対象とした疫学調査がスタートしました。中国側の研究総括責任者に北京大学公衆衛生学部張拓紅先生にお願いし、広東省の調査責任者には広東省母子保健院麦嘉明院長にお願いしました。

疫学調査に関しては、張先生の数回にわたる現地訪問と綿密な打ち合わせにより、省内の主要小児病院209カ所に調査票の発送が終わった段階です。この機会に川崎病の診断、治療および疫学に関する情報を提供し、調査の協力体制を整える目的で、11月13日から1週間の日程で現地を訪問しました。日本から当センターの川崎富作所長、日赤医療センター小児科園部友良部長と私、中国からは北京大学の張先生が参加し、講演、疫学調査の打ち合わせを行いました。張先生には、関連施設との連絡調整、講演の通訳を一手に引き受けていただきました。また、広東州の調査に関して仲介役を務めていただいた香港中文大学医学部小児科の宋銀子教授のところも訪問しました。講演は香港中文大学（参加者50人）、シンセン市児童病院（参加者80人）、広東州母子保健院（参加者200人）の3カ所で行われました。各地域ともに相当数の川崎病患者が発生しているようで、先生方の関心が非常に高く活発な討論が行われました。疫学調査の結果に大きな期待をもっています。

## 第20回日本川崎病研究会と川崎病市民公開講座

理事 園部友良

第20回日本川崎病研究会（会長：園部友良）は平成12年10月13、14日の両日、川崎病発見の地である東京渋谷



の日赤医療センター正門前の学校法人東京女学館講堂で行われました。全国より約250名の川崎病研究者が集い、残念ながら原因究明までには至りませんでした。原因論から治療法まで幅広く、熱心な討議が行われました。

当NPO日本川崎病研究センターと上記研究会共同主催の市民公開講座は研究会後に同じ会場で行われました。この講座の運営準備には川崎病の親の会（会長は当センター理事の浅井満）の全面協力を得ております。今回は東京都、東京都教育委員会、および東京都医師会の後援を得ることができました。有力新聞にも講座のことが掲載され、当日は約200名の保護者や川崎病の本人が集まりました。日赤川崎病親の会元会長小笠原恵子殿の司会により、当センター理事長の川崎富作により「川崎病発見から40年」、続いて日本大学小児科原田研介教授により「川崎病患者の日常生活」についての講演が行われました。引き続き相談会も開かれましたが、皆様大変熱心で予定時間を大幅に超過して会は終了いたしました。

最後にこの市民公開講座および研究会にご援助、ご協力いただいた方々に深く感謝いたします。

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000円

賛助会員 年会費 5,000円

## 事務局から

### 【センター日報】平成 12 年

- 1月21日 第5回川崎病勉強会「SPE-C 病因論」講師日沼頼夫先生
- 3月17日 平成 11 年度第 4 回理事会
- 5月26日 平成 12 年度第 1 回理事会
- 6月10日 平成 12 年度総会と講演会（於:東京 YWCA）

この総会でご承認いただきました平成 11 年度事業報告及び会計報告と平成 12 年度事業計画及び予算計画は特定非営利活動促進法に従って、平成 12 年 6 月 27 日東京都生活文化局に提出し受理されました。尚これらの書類は総会議事録と共に当センターでいつでもご覧になれますので、お気軽にお立ち寄りください。

- 6月25日 第6回川崎病勉強会「抗原ペプチドの分離(SEREX 法)」講師中山睿一先生
- 8月11日 平成 12 年度公募研究選考委員会
- 10月14日 平成 12 年度第 2 回理事会
- 平成 13 年 3 月 23 日 平成 12 年度理事会
- 平成 13 年 6 月 1 日 平成 13 年度理事会
- 平成 13 年 6 月 9 日 平成 13 年度総会と講演会（於:東京 YWCA 予定）

### 【今後の研究会の予定】

第 25 回近畿川崎病研究会 平成 13 年 3 月 3 日（於:テイジンホール）

会長:佐野哲也大阪厚生年金病院小児科部長

第 2 回北海道川崎病研究会 平成 13 年 6 月 16 日（於:KKR 札幌）

代表世話人:濱田勇手稲溪仁会病院小児科部長

第 21 回日本川崎病研究会 平成 13 年 9 月 14 日・15 日（於:倉敷市民会館）

会長:馬場清倉敷中央病院心臓病センター小児科部長

第 7 回国際川崎病シンポジウム 平成 13 年 12 月 4 日～7 日（於:箱根プリンスホテル）

会長:直江史郎東邦大学医学部病理学教授

第 8 回川崎病東京連絡会 平成 13 年 6 月頃の予定（於:日赤医療センター）

代表世話人:藺部友良日赤医療センター小児科部長

### 【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(月曜日～金曜日：午前 10 時～午後 4 時)

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター

〒101-041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階

Tel:03-5256-1121

Fax:03-5256-1121